

## 初場所

と  
短歌いけだ  
池田はるみ

今年も初場所がもうすぐはじまる。初場所と聞くとわたしは、花玉を吊るした国技館サービスの前のあかるい通路や、場所入りの力士たちの華やかな衣装を思い浮かべたりする。豪華な化粧まわしの横綱の土俵入りなども、初場所はことのほかい。力士たちは「場所が終わるまでお正月はきません」などと言う。毎年くり返される言葉なのだが、この頃はそういう言葉もとみにいとおしい。テレビに映る観客席の人たちのうつし和服姿も観戦の喜びを高める。年の初めの場所と心のどこかで改まって観ているのだろう。

昭和二十三年生まれの私の子どもの頃、相撲はとても人気があった。最初に覚えた横綱の名は東富士だったと思う。東富士は関脇力道山と共にプロレスラーの記憶の方が強い。しっかり

と覚えたのは千代の山、鏡里、吉葉山、栃錦の四横綱である。千代の山は横綱昇進が昭和二十六年、最終場所が昭和三十四年だから、ちょうどテレビが一般に普及する頃である。これらの横綱はテレビで見たのだろう。吉葉山は美しく女性ファンの多い横綱だったが、戦地から復員した力士であることを知ったのはずつと後である。

千代の山隆々として柏手を打つとき力士端正と思ふ

「弱いから吉葉山」ああ 復員の力士ぞ痩せて帰るとぞ聞く  
横綱が八十歳まで生きたこと称えられたる鏡里はや  
大銀杏がやけに大きい栃錦 尻にいつもの絆創膏が

この後の横綱は若乃花、朝潮、柏戸、大鵬と続いてゆくのだが日本中に熱狂的なファンがいて相撲のよい時代であった。昭和三四、四十年代といえは、そろそろ半世紀を経ようというのであるから、こういう話をしているとなかなか先へ進まない。相撲好きが高じて私には『お相撲さん』というエッセイ集がある。そこに「平成十三年の初場所のこと」という一文がある。（この初場所ではよかったと思うことはもう一つある。千秋楽、武蔵丸と貴乃花の優勝決定戦の一番である。本割から決定戦に至るまでを、武蔵丸がゆうゆうと出を待っているのに対して、貴乃花はものすごい緊張感の中に鉄砲を繰り返していた。いいものを見たような気がした。一番は、どうしようと思うほど長い時間に感じられた。解説の北の富士が、一生懸命見てしまったのでビデオが出ないと解説しにくいと言ったのは本当だろう。実は貴乃花を見ていたのだろうか、と思ったりした。

鉄砲は基本の技を黙々と繰り返すはや 貴乃花はや  
貴乃花おもふとぞいふ 懸命に強くなりたき頃の心根を  
両まはしを引き付けて寄る摺り足が舞ひのやうだとほれば  
れとして

攻撃へ転ずる一瞬ぐうと満ち 満帆があな寄りたててゆく

曙が引退を表明したのは、貴乃花の優勝気分はまだ抜けぬ一月二十二日であった。……

貴乃花の優勝は二十一回目であった。この年は貴乃花というヒーローの時代が終わってゆく過程の年でもあった。当時の小泉首相が「痛みに耐えてよく頑張った。感動した」と叫んで、最後の二十二回目の優勝杯を手渡したのはこの年の五月場所のことである。やはり貴乃花と武蔵丸の優勝決定戦であったが、前日の武双山戦で膝を痛めて相撲を取れる状態ではなかった貴乃花が、大方の予想を裏切って、豪快に武蔵丸を上手投げにし、鬼の形相となった一戦である。相撲史に残る一番と言われたが、今も覚えている人は多いだろう。この一番によって、貴乃花の膝はついに回復しなかったと言われている。相撲でいつも思うのは、鬼のような体力をもった横綱にも不調があり、体力は常に有限であるということだ。相撲は人生の栄枯盛衰を身近に見せてくれるスポーツだと思ふのであろう。昭和の終わりから平成にかけてもまた相撲はまことに面白い時代であった。

凛々しくて貴花田あな切れ者の若花田そよ娶らずにるよ

曙が 五月の空を押しあけて大関といふ関を越えたり  
「憎らしい顔だったわね」本当は き、北の湖の尻が憎らし  
如月や鍛へあげたる千代の富士がみづみづとせる鬘を落と  
しぬ

初場所を国技館で観戦したのは平成十七年である。朝青龍の横綱土俵入りを向こう正面から観た。引き締まった身体が弾むようなリズムでせり上がってくるのであった。まことに勇猛快活な横綱であって、この年は一年間すべて朝青龍の優勝に終わった。この後、ごたごたがあつて朝青龍は唐突に引退してしまふ。台頭してきた白鵬と、これから良い両横綱の時代になるかと思われたが残念であった。今、相撲界は様々に落としてしまった評判を取り戻しつつある。白鵬と言う良い横綱に恵まれたことも幸いするだろう。相撲人気が払底した平成二十二年、白鵬が死力を尽くして六十三連勝したのは、相撲ファンなら誰しも胸を熱くしたと思う。自ら双葉山をめざすことによって、偉大な双葉山を皆に思い起こさせたのである。

滾りつつ見てゐる結びの相撲あり朝青龍が張り差してゆく  
いきなりの引退にああ馬鹿と思ふ朝青龍をまもれぬ力  
モンゴルの大帝国を思はせた朝青龍の奇天烈の綱  
白鵬がささへて来たる土俵なり連勝といふ明るき記録に  
白鵬を倒すは日本人であれ悲しきことをまだいふ人や

次号は松村正直さんをお願いします。